

## 『別冊整形外科』 No. 74 「しびれ・痛みに対する整形外科診療の進歩」

外傷などの急性期症状を除けば、整形外科を受診する患者さんの主訴は四肢のしびれと痛みがほとんどです。まれに運動麻痺や関節の可動制限も主訴になることがありますが、単独ではまれで、しびれ・痛みを伴っています。原因が末梢神経、脊髄神経根にかかわらず、症状として出現するのは手のしびれであったり、足の痛みであったりするわけです。痛みの分類については、近年、侵害受容性疼痛や神経障害性疼痛などといった概念が急速に普及し、それに合わせて数多くの薬物も使えるようになりました。一般に使われる痛み止めも、非ステロイド性抗炎症薬を剤形をかえて出していた時代とは大きく様変わりしています。しかしながら、神経障害性疼痛に対して新たに使えるようになった薬剤は、オピオイドも含めてそれなりの使い方の工夫が必要で、ともすると適量の投薬ができずにドラッグショッピング状態になりがちです。

一方、手術的治療については、末梢神経の絞扼性障害に対する治療はすでに確立した感があり、内視鏡手術なども低侵襲化がすすんでいます。また、従来メカニカルな要因による痛みと考えられていたものであっても、上殿神経痛による殿部痛のように新たな神経障害として見直され、手術的治療の対象とされる場合もあります。また、薬物療法と手術的治療の間にもブロック療法や理学療法、装具療法など、多様な治療手段があり、それぞれのエビデンスが集積されつつあります。

そこで本特集号では、しびれや痛みなどの神経症状に対する整形外科治療の進歩をテーマとして、診断そのものから保存的治療および手術的治療に関する論文を広く募集します。エコーやMRIなどの画像機器や電気生理学的検査の進歩による診断精度の向上、薬物療法の実践的なプロトコル、手術的治療の進歩などがテーマです。日常診療に参考になるような、処方のコツや、逆にビットフォールについても科学論文の形式にとらわれず、ご紹介いただければと思います。下記のテーマに沿ってふるってご応募ください。

## 募集テーマ

## I. 総論

## 1. 薬物療法

- 1) 非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs)
- 2) 神経障害性疼痛にターゲットをのいた薬剤
- 3) オピオイド
- 4) セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬 (SNRI)
- 5) 組み合わせ
- 6) 漢方薬
- 7) その他 (骨粗鬆症治療薬など)

## 2. 理学療法

- 1) 運動療法
- 2) 認知行動療法
- 3) AKA-博田法
- 4) 筋膜リリース

## 3. インターベンショナル治療

- 1) エコー下神経ブロック
- 2) 特殊な関節に対する注射
- 3) ヒアルロン酸注射
- 4) ボトックス, その他の注射療法
- 5) 脊髄刺激療法
- 6) ブロック療法
- 7) 温熱療法

## II. 疾患・病態別の診断・治療

## 1. 頸椎

- 1) 頸部痛・肩こり・後頭部痛
- 2) 神経根症・脊髄症による上肢痛
- 3) 頸髄損傷後疼痛
- 4) 頸椎捻挫

## 2. 胸郭出口症候群

- 1) 薬物療法
- 2) ブロック・理学療法
- 3) 手術的治療

## 3. 複合性局所疼痛症候群 (CRPS)

## 4. 上肢

- 1) 肘部管症候群の手術的治療, 遺残症状のコントロール
- 2) 手根管症候群の発症予防, 手術的治療, 遺残症状のコントロール
- 3) 五十肩
- 4) 上腕骨外側上顆炎
- 5) Heberden 結節・母指手根中手 (CM) 関節症
- 6) de Quervain 病
- 7) グロムス腫瘍

## 5. 体幹

- 1) 肋間神経痛
- 2) 内臓痛・大動脈解離

## 6. 腰殿部

- 1) 仙腸関節障害
- 2) 上殿神経障害
- 3) 外側大腿皮神経障害
- 4) 腰椎手術後の腰殿部痛 [failed back surgery syndrome (FBSS) を含む]
- 5) 骨粗鬆症に伴う痛み
- 6) 非特異的腰痛
- 7) 椎体偽関節
- 8) 成人脊柱変形
- 9) その他

## 7. 下肢

- 1) 腰部脊柱管狭窄症に対する薬物療法
- 2) 腰椎椎間板ヘルニアに対する薬物療法
- 3) 腰椎椎間板ヘルニアに対する椎間板内治療
- 4) 血管性障害
- 5) 伏在神経障害
- 6) 足根管症候群
- 7) Morton 病

## 8. その他

## III. 周術期疼痛管理

『整形外科』編集委員会

\*

\*

\*

ご応募くださる方は、タイトルおよび要旨 (1,000 字以内) を、2018 年 2 月末日までに下記『整形外科』編集室・『別冊整形外科』係宛にお送りください (E-mail でも受け付けます)。2018 年 3 月末日までに編集委員会で採否を決めさせていただきます。その後ご連絡いたします。なお、ご執筆をお願いする場合の原稿締め切りは採用決定から 2 ヶ月後 (2018 年 5 月末日)、発行は 2018 年 10 月予定となります。

送付先: ☎ 113-8410 東京都文京区本郷三丁目 42 番 6 号

株式会社南江堂 『整形外科』編集室・『別冊整形外科』係

(TEL 03-3811-7619 / FAX 03-3811-8660 / E-mail: pub-jo@nankodo.co.jp)

◀ 『整形外科』編集室 ▶